

結晶母

2012 年 4月号

発行日：2012 年 4月 15日

「結晶ができる時、最初にうまれる結晶。それが結晶母。結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、ひとつの大きな結晶をつくる。ひとつひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは強く、たくましい！そんな大事な結晶母の役割を、地球に住むひとりひとりが果たせたら・・・」そんな願いを込めて、名付けました。



週2回開催される「刺し子会」で互いに技術を教え合う刺し子さんたち（岩手・大槌）

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 創設者 鬼丸昌也

2011年3月11日。この日は、世界中の人々、そして僕らにとっても忘れられない日。あの日から、僕らも大きな変化を遂げてきました。初めての災害支援、国内での活動。失敗も、苦しい事もたくさんありました。けれども、そんなときに、私たちが明るく支えてくださったのは、支援者の皆さん、そして、被災地で出会った人々の姿でした。あれから1年。私たちは、すべての生命が安心して生活できる社会を目指して、岩手でも、海外でも歩みを止めず、前進していきます。それが、私たちの「祈り」なのです。

目次：

- p1 創設者メッセージ
- p2-3 ともつな基金報告
- p4-5 海外事業報告
- p6-7 京都事務所報告
- p8 ふえいす to ふえいす

●刺し子さんのそれから 焼き鳥屋「七福」を開店した小川勝子さん



心を込めて焼き鳥を焼く小川さん

小川勝子さん（70 歳）は、「大槌復興刺し子プロジェクト」から卒業した一人です。念願だった焼き鳥屋の再開を、昨年 11 月に叶えました。6 歳年下の妹さんが経営され、勝子さんが手伝ってた焼き鳥屋。妹さんがお母様のお店を継ぎ、姉妹二人で秘伝の味を守っていました。

3 月 11 日の大津波は、勝子さんから、大切なお店と最愛の妹さんを奪い去りました。勝子さん自身も自宅を失いました。5 月に妹さんの亡骸と対面した勝子さんは、こう思ったそうです。「お店も妹も奪われてしまった事が悔しくて、悔しくて。どうしても私がある味を守らなくちゃいけない」と。

そんな折に出逢ったのが、避難所のロビーで刺し子をしている人達でした。興味を持った小川さんは、私達の活動を理解し、参加して下さいました。もともと洋裁をしていた勝子さんはすぐに刺し子さんとして活躍するようになりました。再初は、「刺し子をしていると亡くなった妹のことを考えなくてすむ。」という気持ちから始められた刺し子。手仕事があり、作る目標がある事に、いつも感謝の気持ちを私達に伝えてくれました。私

達の活動が、仕事を創出するだけでなく、心のケアの側面があると断言できるのは、こうした理由からです。

月日が流れる中で焼き鳥屋の再開が現実味を帯び、再開を目標として勝子さんは刺し子制作をとても頑張ってくれました。結果として、本プロジェクトに関わった 6 月から 10 月の間に、約 50 万円分の刺し子をし、そのお金を開店資金として活用して下さいました。

私は今でも再開オープンその日の事が忘れられません。沢山のお客様で賑わう店内で、忙しそうに、そして充実した様子で働いている勝子さんをみて、とても嬉しかったのを覚えています。私達スタッフは、大槌での活動の際には勝子さんの焼き鳥を食べにいつもお店に行きます。店に入る時、そして出る時、勝子さんは笑顔で「おかえり」「いってらっしゃい」と挨拶してくれるのです。まるで家族の様に私達と接してくれています。

皆様からの応援で、こうして勝子さんが夢を現実にすることができました。また、私達スタッフの居場所もこうして広がっています。引き続き、継続的な支援を心に頑張っていく所存です。（よしの）

●二ツ谷淳さんに、献身的なサポートをいただいています

「人生、出会うべき人には必ず出会う。しかも一瞬遅からず、早からず。しかし、内に求める心なくば、眼前にその人ありといえども縁は生じず。」

教育家として有名な森信三先生のお言葉のような縁を“本舗飛騨さしこ”の二ツ谷淳さんと築けた結果、2012 年の 2 月と 3 月の 2 ヶ月間、遠野市の当プロジェクト事務所に常駐して頂きました。淳さんは、刺し子専門店である“本舗飛騨さしこ”の三代目（現社長様のご子息）です。本プロジェクトが、吉野と 4 名の有志で始動した初期段階において、材料供給の安定化への協力を申し出て下さったことが彼とプロジェクトとの最初の縁でした。

2011 年 11 月、淳さんに岩手・大槌まで足を運んで頂き、直接刺し子さんへの技術講習をお願い致しました。淳さんは、その際に出逢った刺し子さん達の笑顔が忘れられず、その笑顔を守るために「自分に出来る事は何か」を考え、2 ヶ月間の長期赴任を決断されました。主に、独特な刺し

子製造業務の“流れ”の改善と技術指導の任を遂行して頂きました。

日本の伝統的な手仕事である刺し子を後生に残そうと活動をしている淳さんの気持ちをお聞きする中で、私たちテラ・ルネッサンスが本プロジェクトを通して大槌を中心とした被災地に、何を築いていきたいのかを再認識できたと信じています。それは手仕事の持つ物質的、あるいは心理的な問題解決能力であり、また日本で培われた「伝統技術」が持つ未来への可能性でもあります。

私たちは、本プロジェクトを継続的に長期間支援する覚悟をしています。長期的な支援、つまりは現地での産業化を目指すなかで、被災者の皆さまの経済的な生活再建、そして「生きがい」を含めた心のケアを形にしていける事を目標としております。今後とも、大槌復興刺し子プロジェクトへの皆様の心ある支援応援を頂けますよう、心よりお願い申し上げます。（おにまる）

●刺し子プロジェクトの様子

活動地である大槌町では、震災により近隣の方々と離れ離れになり、当時の出来事をお一人で思い出す方も多く、また特に女性にとって未だ働き口が少ない状況です。このような中、大槌を中心とした地域の、主に中高年の女性に「刺し子」商品を制作して頂いています。毎週「刺し子会」を開催し、作り手である「刺し子さん」から商品の買い取りを行っています。刺し子さんからは「お金をそのまま嫁に渡すの。

米でも買ってって。喜んでもらえるのが嬉しい」、「刺し子をしていると辛いことを考えなくなる」という声を頂いています。また「震災後に離れ離れになった友人と出会えた」、「皆と出会えて良かった」という声もあり、刺し子さんたちの交流の場となっています。プロジェクトにより、現金収入をお渡することで生活再建を促進し、商品制作や刺し子を通じた交流が心のケアにつながるよう、日々活動しています。(すずか)

刺し子プロジェクトの実績(2012年2月29日時点) ※刺し子さん:刺し子商品の作り手の方

・販売枚数:7,127枚 ・売上:7,019,200円 ・刺し子さんの登録人数:170名 ・刺し子さんの収入: 4,766,620円

●大槌復興刺し子プロジェクトを応援してください

刺し子商品を販売しています!

一針一針、刺し子さんが心を込めてつくった商品を刺し子さんから買い取り、コースター、ふきん、Tシャツを販売しています。大槌の鳥「かもめ」をモチーフにしたオリジナルデ

ザインです。手縫いですので、大槌かもめの表情がそれぞれ違っていますが、大量生産ではなく手縫いだからその良さが出ている、素敵な商品に仕上がっています。また、3月からはキッズ用のTシャツも販売を開始しました!

●商品紹介

大槌復興 かもめコースター

四隅の米刺しが可愛い、和洋どちらにもじっくりとくるコースターです。リバーシブルでお使い頂けます。

品名	大槌復興かもめコースター(ベージュ・グリーン)
サイズ	11cm×11cm
素材	表生地:綿(100%) 裏生地:綿(100%)

税込700円(ベージュ×茶色)

海辺に佇み、羽を休めているカモメをイメージしたデザインです。ナチュラルな色合いの綿の生地に生成り糸を使い、素朴な雰囲気になりました。



税込700円(グリーン×抹茶色)

空飛ぶカモメをイメージしたデザインです。シックな色合いの綿の生地に生成り糸を使い、素朴な雰囲気になりました。

大槌復興 カモメふきん

吸水性、速乾性に優れた晒し木綿を、二枚仕立てに仕上げました。薄手で使いやすく、食器用ふきんや台ふきん、豆腐の水切りなどに。ふきんの両裾には、刺し子の伝統文様「柿の花」をあしらいました。

品名	大槌復興かもめふきん(ピンク・ブルー)
サイズ	34cm×34cm
素材	さらし:綿(100%)

税込1,200円(ピンク)

羽を休めて佇む、仲良し2羽の双子かもめのデザインです。パールピンクとベージュの刺し子糸が白地に映える、優しい色合いです。



税込1,200円(ブルー)

空飛ぶかもめをイメージしたデザインです。ミントグリーンとスカイブルーの刺し子糸が白地に映える、爽やかな色合いです。

大槌復興 モバイルTシャツ

大槌町のシンボル「鮭・つつじ・かもめ」をあしらった、モバイル・デザインのTシャツです。背面には、「大槌復興刺し子プロジェクト」の象徴ともいえる「かもめ」が羽ばたきます。飛騨さしこ本舗さんの人気商品「段染め糸」で、鮮やかな虹色のラインを描きました。糸の使用部分によって色がグラデーションになり、一つとして同じ色合いのものがありません。

大人用Tシャツ:税込3,500円



キッズ用Tシャツ:税込3,200円



新商品

品名	大槌復興 モバイルTシャツ	素材	綿100%
色・サイズ	大人用: 白/チャコールグレイの2色。S/M/L各サイズ キッズ用: 白/メトロブルーの2色。100cm/120cm/140cm各サイズ	備考	洗濯時は、洗濯ネットの使用をお勧めします。

●商品のご購入はこちらから

- (1)FAXでのご注文 「FAX注文書」をご記入の上、FAX番号0198-68-3370までお送りください。
(2)プロジェクトサイト <http://tomotsuna.jp/> 「購入する」から、ご注文いただけます。

●「心の傷」にどのように取り組むか(ウガンダ)



心理社会支援について池内氏からの研修を受ける現地職員たち

昨年の4月からウガンダ事業（元子ども兵社会復帰支援プロジェクト）を現地職員主体の運営体制に移行して、はや10ヶ月近くが経ちました。今年2月から日本人職員2名（小川、吉田）が現地事業の評価に訪れましたが、予想以上に現地のスタッフがオーナーシップを持って事業を継続してくれています。日本人が駐在していた頃に比べて、職員一人ひとりが自身の役割の重要性を自覚して、元子ども兵の自立支援に取り組んでいる印象を受けました。

今回の訪問にあわせて、よりよい活動が行えるように、心理社会支援の手法に関する研修を行いました。現在、現地の

施設で受け入れている元子ども兵らは、隣国、コンゴ民主共和国での戦闘にも駆りだされ、ウガンダに戻ってきた時には、心身ともに傷を抱えていました。とくに精神的な傷をどのように軽減していくかは、元子ども兵が社会復帰する上で、これまでも重要な課題でした。今回の研修では、日本から招致したカウンセラーの実務家から、現地職員全員が「心の問題」に対してどのように対応していくかについて学びました。

当会の支援事業では、「心の問題は、日常生活の安定や地域社会との関係性に密接に関係している」との認識から、直接的なカウンセリングだけでなく、経済的な安定や地域住民との相互扶助の促進を並行して行ってきました。その背景には、「レジリエンス」を高めるという考え方があります。今回、招致したカウンセラーの池内秀行氏は10年以上も前から、この考え方を取り入れたカウンセリングを実践されている方です。レジリエンスとは、困難な状況に対して、跳ね返す回復力のことで、そうした力は、外部から与えられるものではなく、その人自身の中にすでにあるものであると捉えます。元子ども兵だけでなく、現地職員（また、わたしたち日本人自身も）、それぞれ心に傷を抱えていても、それを回復する力や、その傷と「うまく付き合いつながり」よりよい日常生活を過ごしていく力や能力を持っているという考え方です。今回の研修を受けた現地職員の一人は、「元子ども兵たちがこうした力を発揮していけるような環境を作っていけるようにがんばっていきます」と話していました。今後も引き続き、こうした研修を通して、現地職員が、よりよい活動を行っていきけるように支援を続けていきたいと思っています。（おがわ）

●安全な活動基盤の整備(コンゴ民主共和国)

コンゴ東部の南キブ州において、元子ども兵や性的暴力を受けた紛争被害者の方々が、衣食住を満たすことを目的に活動を続けています。しかし、活動地域のカロング区域で一昨月、ここ最近では比較的、規模の大きい襲撃があり50名以上の住民が殺害されました。幸い、現地の事務所や職員らに被害はありませんでしたが、安全に活動を継続していく為に、コンゴの職員をウガンダ事務所に呼び寄せて、今後のリスク管理や安全対策についての話し合いを行いました。その中で、今回の襲撃が大規模な戦闘に発展していく可能性は低いですが、移動手段や通信手段を強化することの重要性などが共有されました。引き続き活動は継続していきますが、現場の人員が安全に活動できるように万全の対策を考えていきたいと思っています。（おがわ）



コンゴ事業の現地職員とウガンダ事務所職員

●オッチョンボック村小学校へ机と椅子の寄附 頑張らないバドミントン大会(カンボジア)



新しい机で勉強するオッチョンボック村小学校の子どもたち

2011年6月25日になみはやドームで開催された第5回「頑張らない」チャリティ・バドミントン大会からの寄附により、小学校の先生や村長さんから要望のあった学習机を72セット、教卓3セットをオッチョンボック村小学校へ提供しました。2011年前半まで地雷原が残っていたオッチョンボック村では、小学生210名が勉強しています。これまでキリスト教の教会から借りてきた机と、古い校舎で使っていた机を合わせて使っていましたが、教室には十分に机がなく、子どもたちは1つの机に4-5人も座って、ぎゅうぎゅう詰めで勉強していました。新しい机が搬入され、ようやく子どもたちが落ち着いて勉強できる環境が整いました。2012年1月から子どもたちは、新しい机と椅子での勉強を始めています。小学校の先生は、こう嬉しそうに話してくれました。「教室には机椅子が十分になかったので、教会から

借りてきて使っていました。前の校舎で使っていた古い机と椅子は、損傷が激しく、文字を書くときにぐらぐらと揺れてしまいます。今は生徒数が増加しているので、4教室は午前午後とも授業でいっぱいです。新しい校舎では、ようやく子どもたちが勉強できる環境が整い、とても嬉しいです。」(えすみ)

●地雷の危険性を知らせ、地雷被害者たちの収入向上につなげる“うちわ” ～地雷埋設地域クメール伝統音楽復興&継承プロジェクト(カンボジア)

トヨタ財団アジア隣人プログラムによる助成で、2010年からオッチョンボック村で実施しているクメール伝統音楽の復興と継承をするプロジェクト。2011年末には、村の伝統楽団の宣伝をする団扇を製作し、オッチョンボック村周辺のカムリエン郡の村に配布しています。この団扇の裏面には、地雷の危険性を知らせる地雷回避教育用のポスターを貼り、提携する地雷撤去団体MAGにも、この地域で地雷回避教育のワークショップを実施するときに配布してもらっています。この団扇は、まだ電気の普及が遅れている地域の村人たちが暑さをしのぐことができるだけでなく、地雷の危険性を知らせると共に、伝統楽団の宣伝をすることにより、地雷被害にあってきた楽団メンバーの収入向上にも貢献するのです。そして、団扇を製作しているのは、素材となる竹が生えているブレア・プット村の元地雷原に住む貧困層の村人たち。団扇をテラ・ルネッサンスが買い取ることで、ブレア・プット村の貧困層の収入向上にもなっているのです。この団扇の宣伝効果により、2012年3月5日と10日にも伝統楽団が、ブレア・プット村の村人の結婚式で演奏しました。村人たちの評価も上々です。これらの結婚式には、伝統音楽の講習を受けている子どもたちも、わざわざバイクで見に来ていました。まだ、ジュニア楽団の子どもたちは小学生ですが、すでに大人の楽団に負けないぐらいの演奏ができるようになっており、将来がとても楽しみです。(えすみ)



クメール伝統楽団を宣伝するうちに興味津々の村人たち



ブレア・プット村の結婚式で、伝統楽団の演奏を伴い
花嫁の家へ向かう花婿

●テラ・カフェ テラ・ルネッサンスをより身近に感じてもらうために

毎月第2水曜日19時から、テラ・ルネッサンス京都事務所がある「jimukinoueda bldg.」セミナールームにて行われるのが「テラ・カフェ」。テラ・ルネッサンスってどんなところで活動しているの？どんな課題に取り組んでいるの？という疑問にお応えするために、また、職員・インターンと支援者の皆さまとの交流の場として、定期開催をしています。2012年1月度は、大槌復興刺し子プロジェクト事務所にて勤務する吉野スタッフ、関スタッフの報告を行いました。仕事を辞めて、被災者に寄り添いたいと、被災地に飛び込んでいった吉野スタッフの想いや、大槌町出身として、被災前の



テラ・カフェで語る吉野スタッフ

町の良さを静かに語る関スタッフの話に、参加して下さった皆さまが熱心に耳を傾けてくださっているのが印象的でした。これまでも、「NPO・NGOの広報」、「小型武器とテラ・ルネッサンスの取り組み」など、多岐にわたるテーマで、テラ・カフェを開催してきました。毎月第2水曜日19時、テラ・カフェに足をお運びください。職員・インターン一同、お待ちしております。(おにまる)

●志が集う。新・京都事務所の様子

京都事務所が移転したのが、2011年11月。新しくなった京都事務所で働く職員・インターンたちが、作業に集中する姿を見て、とても頼もしく感じています。セミナールームが併設されている好環境を活かして、テラ・カフェや臨時総会など、各種イベントを開催しやすくなり、新たな支援の輪が広がっています。また、京都市中心部に近くなったこともあり、以前よりも多くの方が、事務所にお越しくださるようになりました。先日、京都市内のH保育園で、インクカートリッジを集めてくださった保護者の方が、お子さんと一緒に届けに来てくださいました。「小さなことだけでも、自分にできることを」と仰ってくださることに、事務所にいた職員・インターンも感動しました。人が集うところには、何かを生み出そうとするエネルギーが生まれてくると、私たちは信じています。より支援者さまや社会に身近なNGO、誰かに紹介したくなる身近なNGOを目指して、暖くも、作業効率のよい京都事務所を目指してまいります。(おにまる)



インクカートリッジを持参下さった支援者さま

●新たなインターン生の紹介



奥村

皆さまはじめまして。奥村梨果と申します。私は昨年春、大阪芸術大学放送学科を卒業し、東京で約半年間テレビの製作会社でADとして働いておりました。諸事情がありまして、大阪の方に帰ることになったのですが、ご縁がありまして、この度インターンシップ生としてお世話になることになりました。大学時代からカンボジアに興味があり、これまで3回カンボジアを訪れました。なにかしらの形で、国際協力・支援と関わりたいと以前より考えておりましたので、こうして携われるということに感謝しております。現在、アフリカの元子ども兵の問題の啓発DVDを作成するプロジェクトに参加させていただいています。偶然にも前職の経験が活かせるということで、このプロジェクトを通じ、さらに成長できれば、と考えております。もちろん、DVD作成だけでなく、日々の業務を通じ、テラ・ルネッサンスの活動を深く理解したいと思っています。至らない部分もあると思いますが、よろしくお願いいたします。



瀬川

皆様、はじめまして。この度インターンシップ生として、テラ・ルネッサンスの活動に参加することになりました、瀬川鮎美と申します。私の将来の夢は、子ども兵、または元子ども兵であった人々が社会復帰できるように支援することです。高校2年生の頃、世界中に数多く存在する子ども兵を知り、ショックとともに興味を持ち始め、いつしか彼らの笑顔を見ることが私の夢になっていました。

性的暴力や麻薬、小型武器などを使って実際戦闘に行き、大切な仲間や家族を失ったというトラウマが、どれほど彼らを苦しめているかを考えたとき、哲学、心理学、宗教学を学ぶ決意をしました。これらすべてが、元子ども兵の心を根本から理解するのに不可欠だと考えたためです。

今春、大学3年生になりますが、今夏からアメリカに約1年間留学することに決まり、哲学を中心に現地大学の授業を受講する予定です。

約半年という短い期間ではありますが、一所懸命に努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

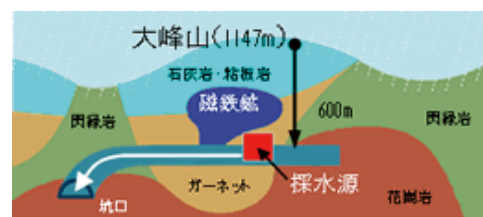
●東北を応援！釜石の鉱山で採水された「新生水」取り扱い開始！

テラ・ルネッサンスでは、ともつな基金（被災地支援事業）や海外での支援活動を支えるために、岩手県釜石市にある大峰山で採水されたナチュラルミネラルウォーター「新生水」の取り扱いを開始します。売価4,800円／1ケース（1Lボトル12本入り）のうち、1,400円が各地での支援活動に活用されます。また、「新生水」の購入を通じて、岩手県の地場産業を支えることにもつながるのです。

「新生水」とは、長い歳月をかけて、北上古生層という約二億年前に、磁鉄鉱と石灰岩とザクロ石でできた厚さ600メートルの自然のろ過器を通して地底に湧出したナチュラルミネラルウォーターです。地底600メートルの水源から、厳しい衛星管理のもと、直接採水ボトリングして、過熱滅菌等の人工的な処理は一切行わず、「生きている水」を自然のあるがままの状態でお届けいたします。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。



ナチュラルミネラルウォーター「新生水」



天然のろ過装置を通して、透き通る水が生まれます。

●一杯のコーヒーが、元子ども兵の学ぶ意欲を支えます



コーヒーを飲むという気軽な社会貢献！

「アフリカの真珠」と呼ばれるほど、自然豊かなウガンダ共和国。そのウガンダ共和国で自然栽培されたコーヒーを、テラ・ルネッサンスでは長年、取り扱いをしています。無農薬で栽培されたウガンダ産コーヒーは、口当たりも良く、安心して飲むことができると評判です。売価800円／袋のうち、約400円が、ウガンダ共和国北部で「元子ども兵社会復帰支援プロジェクト」経費として活用されます。2袋分で、元子ども兵が職業訓練を受けるための経費を賄うことができます。毎日、飲むコーヒーで気軽にできる社会貢献の輪が、日本全国に広がりつつあります。ウガンダ産コーヒーに関する詳しいお問い合わせは、テラ・ルネッサンス（TEL：075-741-8786）まで。

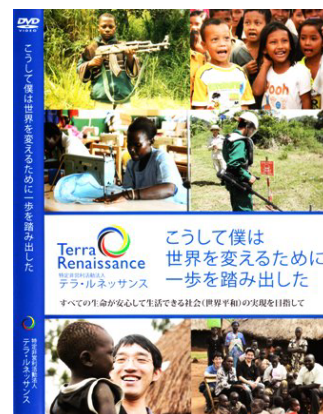
●自宅で、職場で、鬼丸昌也の講演を

年間100回以上の講演を全国各地で行っているテラ・ルネッサンス理事 鬼丸昌也。けれども、そのほとんどの講演は、対象が限定される学校や企業での研修で、一般に公開される講演は少ないのが現状です。

『一度でいいからその講演を聞いてみたいけど、なかなか参加ができない』、『あの時の講演が忘れられないからもう一度聞きたい』、『講演を家族や友人、同僚にも聴いてほしい』。

そんなご要望に応え、鬼丸昌也の講演がついにDVDになりました。ご家庭で、職場で、学校でご覧になりますか。きっと新しい、「一步」が見つかるはず。DVDに関する詳しいお問い合わせは、テラ・ルネッサンス（TEL：075-741-8786）まで。

DVDで迫力ある講演をお楽しみください。



●これからの結晶母の発行について(お知らせ)

以前より、テラ・ルネッサンスの各地での取り組みを、わかりやすく伝えてほしい。もっと気軽に活動を知ることのできる方法を提供してほしいとの声をいただいております。そこで、私たちの海外や日本国内での多岐にわたる活動を、より身近に感じていただけるように、会員の皆さまへの報告方法を変更することにいたしました。まず「結晶母」の発行頻度を年3回から、年1回(毎年12月)とさせていただきます。(年次報告書は引き続き、毎年6月ごろにお届けいたします。)その代わり、海外事務所からの時候のお便り(はがき)をお送りし、海外事務所の雰囲気を身近に感じていただいたり、ウェブサイト上の会員限定ページの充実し、活動状況をよりリアルタイムにお伝えしてまいります。今後も、会員の皆さまへの情報発信能力を向上するよう努力してまいります。(おにまる)

●公式facebookページを開設しました。

世界に7億人もの登録者がいると言われる SNS (ソーシャルネットワークサービス) Facebook。情報発信ツールとして、テラ・ルネッサンスとしても活用することになりました。テラ・ルネッサンス公式の Facebook ページを作成。活動状況を、気軽に報告するツールとして活用しています。新たな試みとして、カンボジアスタディツアーに同行している栗田スタッフがツアーの状況を写真と共にリアルタイムで報告しています。ぜひ、以下のページにアクセスいただき、「いいね」をクリックして、テラ・ルネッサンス公式 Facebook ページをチェックしてください。(おにまる)

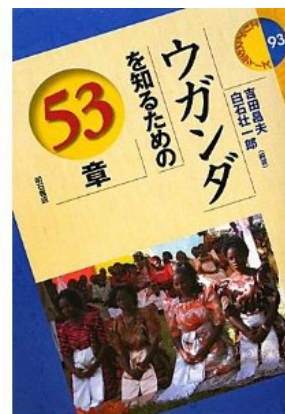


公式facebookページ ▶ <http://www.facebook.com/terra.ngo>

●小川も執筆した「ウガンダを知る53章」が刊行されました

明石書店より、『ウガンダを知るための 53 章』が刊行されました。皆さん、このシリーズをご存知でしょうか。これまで、94 の国、地域等について『〇〇を知るための□□章』というタイトルで刊行され、その地域の政治、歴史、文化や食事、生活様式などについて分かりやすく書かれた、いわば、『地球の歩き方・マニアックバージョン』(笑)。今年 1 月、このシリーズに待望のウガンダが仲間入りしま

した。理事長の小川も「開発と現代課題」という項目で、「第 45 章 子ども兵の社会復帰ー北部における平和・復興・開発計画」と「第 46 章 北部の人のびとから見た外国人の援助ー欧米的「援助」に翻弄される人びと」を執筆しています。読み応えたっぷりの一冊、テラ・ルネの事業だけでなく、ウガンダについてもっと知りたいという方、必読です!! ぜひ、お近くの書店でお買い求めください。



<編集・発行>

発行: 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

発行人: 小川 真吾

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21番地
jimukinoueda bldg. 403号室

TEL/FAX: 075-741-8786

Mail: contact@terra-r.jp

公式ウェブサイト <http://www.terra-r.jp>



<編集後記>

2011年度は、ともつな基金を立ち上げ、被災地支援活動を開始したり、理事長の交代、事務所移転など、テラ・ルネッサンスにとって、大きな変化の一年でした。本年度(2012年)は、その組織の変化を、社会変革を導く変化へと発展させるために、着実な成果を、日本や海外で積み重ねていく、そんな年にしたいと願っています。(おにまる)